

横浜市立高田中学校
平成30年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

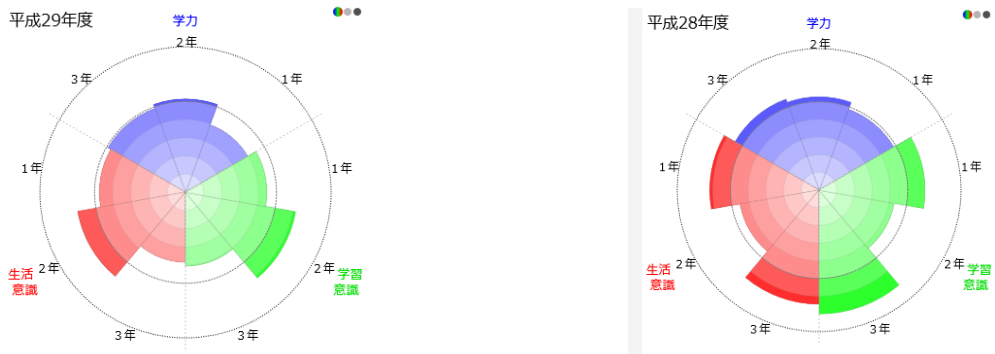
(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
<ul style="list-style-type: none"> ○「総合的でバランスのとれた学校づくり」の実現に向け、教職員相互が啓発・連携し合い学校経営への参加意欲を高めるとともに、組織的・効率的な学校運営に努めます。 ○生徒一人ひとりが学力の向上を実感でき、価値ある生き方を求めて自己変革していくことを支援するため、教職員の研修を充実し、共通理解を深め理解力・指導力の向上につなげます。 ○開かれた学校づくりを一層推進し、学校・家庭・地域との連携・協働による学校づくりを進めます。 	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)		基本的な学習態度の習慣化を図る指導とともに、言語活動の場面に授業に設定することにより、思考・判断・表現の力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ① 全国および市学力・学習状況調査の分析をブロック内3校で協力して行い、ブロックとしての課題を明確にした上で、指導案検討や小中相互の公開授業を行うなど合同授業研修会を活性化させる。 ② 生徒向け授業アンケートを継続して実施し、経年変化も含めて分析し、授業改善に役立てていく。
	担当		

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

第3学年の学力は、概ね市平均と同じ程度である。一方、第1学年については、基礎学力の定着に課題が残っている。

第2学年においては、昨年度に引き続き学習意識、生活意識とも高い数値を示しており、学力も徐々に向上してきている。意識・意欲の高さを確実な学力（基礎基本、活用能力）の定着につなげるために「分かる授業」づくりを推し進めてきた成果が少しずつ表れてきている。

2・3年の数学科では、毎授業で基礎的な計算の振り返りを行う時間を設けている結果が、学力向上につながってきている。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：2・3年において、「読む能力」を問う設問の正答率で、市平均を上回っている。
- 社会科：2年において、基礎的な「知識・理解」を問う設問の正答率が、市平均を上回っている。
- 数学科：2・3年において、計算問題全般の正答率が市平均を上回っている。
- 理科：3年の「観察・実験の技能」に関する問題の正答率が高くなっている。
- 外国語科：2・3年において、「理解」読むことに関して、読み取りの能力がやや高い。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

経年変化の状況から、ここ3年間、理科に対する学習意識の高さがうかがえる。一方、生活意識について安定して高い数値を保ってきていたが、変化が見られた。要因を分析し、対策を講じていく必要がある。また前年度、読書量について改善が見られたが学年が上がるにつれて減っていく傾向が顕著に表れた。

3 平成30年度 学年・教科等としての具体的取組

国語

- 言語活動の充実、表現力の向上を図るために、少人数指導を行い、身に付けた知識・技能を活用する力を高めていく。
- 目的や場面、意図等を意識して話したり聞いたり、書いたり、読んだりすることを通して、思考・判断する場面を充実する。

社会

- 話し合い活動を計画的に取り入れることで、生徒が断片的な知識を構造化したり、獲得した知識に基づいて価値判断する力を高めていく。
- 自分の考えと他者の考えを協働的な活動により比較、検討することで、課題に対する思考を深め、その解決について判断する地方を高める。

数学

- 少人数指導や毎時間の計算練習を行うことで基礎・基本の定着を図る。
- 数学的な見方・考え方を伸ばすために、実物投影機等を活用して、式や図を用いながら自分の考えを論理的に説明する場面を授業展開に適切に取り入れる。

理科

- 自分の考えをレポートにまとめたり発表したりしていくことで科学的な見方や考え方を高める。
- 実験を計画したり事象を説明したりする活動を取り入れ、仮説の議論や結果の共有、考察の議論等において協働的に学ぶ場面を設定する。

音楽

- 鑑賞に力を入れ、基礎的・基本的知識等を活用しながら、お互いの発表のよさを評価し合う場を設定する。
- 生徒同士が音楽表現について意見交換する場を意図的に設定し、よりよい表現を目指すことのできる学習展開を工夫する。

美術

- 題材を身近な生活につながるよう設定し、積極的な自己表現ができるよう展開を工夫する。
- お互いの作品のよさを評価し合う場を設定する。また話し合いや発表する場など言語活動の充実を図る。

保健体育

- 毎授業開始時にランニングとトレーニングを行い基礎的・基本的な体力の保持増進に努める。
- 生徒同士のアドバイス活動を行う場面を作りながら、自身のめあてを設定し、課題解決にむけた学習が行えるよう努める。

技術・家庭

- 小学校や他教科での既習事項や生活体験を生かした題材を設定し、実際の生活場面に活用していく態度を養う。
- 習得した知識と技能を積極的に活用し、作業過程において他とコミュニケーションをとりながらよりよい活動にしていけるようにする。

外国語

- 受け取る力を含めたコミュニケーション能力を高めることで、基本的な知識・技能を確実に定着させ、言語活動の充実、表現力の向上を図る。
- AET とのコミュニケーション活動を充実させることで、意欲・関心を高めていく。

特別活動

- 年間を通じて学級活動や生徒会活動等の自治的活動に主体的に取り組み、自分の考えを積極的に表現できる場を設定する。
- 学校生活や生徒会の取組、学校行事の関連などから課題を見付け、その解決に向け話し合ったり取り組んだりできる活動を設定する。

総合的な学習の時間

- 言語活動の充実、表現力の育成を目指して、「読む」「書く」「発表する」活動を行い、積極的な自己表現に努めるようにする。
- 「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探究の過程が単元の中で何度も繰り返され、スパイラルに高まる学習過程になるようにする。

個別支援学級

- 生徒自ら自立活動の学習に主体的に取り組むために、一人ひとりの実態に応じた学習環境を整える。
- 個別の指導計画に基づき、授業形態や学習集団の構成を工夫し、指導の充実を図り、成就感を味わえるようにする。